



2026年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年5月15日

上場会社名 株式会社ヘッドウォーターズ 上場取引所 東
 コード番号 4011 URL <https://www.headwaters.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 篠田 庸介
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 原島 一隆 (TEL) 03-6258-0525
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年12月期第1四半期の連結業績(2026年1月1日~2026年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第1四半期	1,262	70.8	135	—	52	—	12	—
2025年12月期第1四半期	739	4.4	△67	—	△2	—	△20	—

(注) 包括利益 2026年12月期第1四半期 13百万円(—%) 2025年12月期第1四半期 △0百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期第1四半期	3.24	2.99
2025年12月期第1四半期	△5.43	—

(注) 1. 当社は、2025年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

2. 2025年12月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期第1四半期	3,987	1,367	33.6
2025年12月期	3,849	1,353	34.5

(参考) 自己資本 2026年12月期第1四半期 1,339百万円 2025年12月期 1,329百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年12月期	—	—	—	—	—
2026年12月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年12月期の連結業績予想(2026年1月1日~2026年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,555	119.4	753	228.9	619	382.0	391	578.6	101.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
 新規 一社(社名) - 、除外 一社(社名) -
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年12月期1Q	3,845,744株	2025年12月期	3,844,144株
② 期末自己株式数	2026年12月期1Q	104株	2025年12月期	104株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2026年12月期1Q	3,844,076株	2025年12月期1Q	3,796,656株

(注) 当社は、2025年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無
 監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	8
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2026年1月1日～2026年3月31日)における日本の経済は、雇用・所得環境の改善やインバウンド需要の増加などを背景に、緩やかな回復基調が続きました。また、当社グループを取り巻く事業環境についても、企業のデジタル投資意欲は強く堅調に推移しました。しかし一方で、物価高騰や地政学リスク、米国の関税政策動向等により先行きは不透明な経済状況が続いております。

このような経済環境の中、当社グループが属するIT業界は、AI(人工知能)やDX(デジタルトランスフォーメーション)などの技術革新により、急速な技術発展を遂げております。とりわけAIエージェントの登場・進化は、労働人口の減少をはじめとする社会課題だけでなく、新たなビジネスモデルの創出、イノベーションの促進に大きく貢献しております。AIエージェントはさまざまな分野で利用が進むと同時に技術革新も日進月歩で行われており、今後さらに、こうした環境や技術を活用し事業機会の拡大が見込まれております。

このような事業環境の変化を踏まえ、当社グループは、当第1四半期連結累計期間より、事業の実態及び今後の成長戦略をより適切に反映するため、報告セグメントの区分を変更いたしました。

従来は、企業の経営課題について一気通貫でソリューションを提供する「AIソリューション事業」の単一セグメントにて管理しておりましたが、AIエージェントの進化及び企業のAI活用ニーズの高度化に伴い、当社グループの価値提供は、単発の受託開発や個別プロダクトの提供にとどまらず、X-Tech FDE*1をベースに顧客企業の業務課題を深く理解し、データ・AI・業務ナレッジを継続的に実装・活用する「AIプラットフォーム事業」へ移行しております。

このため、当社グループの成長ドライバーと収益基盤をより明確に示す観点から、事業区分を以下の3セグメントといたしました。

- ・エンタープライズAIソリューション事業：先進AI技術の導入支援による顧客企業の競争優位性確立
- ・AIワークフローエンジニアリング事業：業務プロセスのAI最適化
- ・DATA&AIエンジン事業：再利用可能なAI基盤の構築

これにより、当社グループが目指すFDE主導のAI実装力、SyncLect Data Intelligenceをはじめとするナレッジ資産化、及び既存顧客への継続的な価値提供を、収益基盤の形成と同時に、構造的・継続的な事業成長を循環するシナジー形成により実態に即して把握できる管理体制としております。

当第1四半期連結累計期間におきましては、前連結会計年度から引き続きAIエージェントに対する需要は好調で、従来のセグメントであるAIインテグレーションサービスの売上が続伸しております。

*1 X-Tech FDE(クロステック・エフ・ディー・イー)は、様々な技術(X-Tech)を使ってFDE(Forward Deployed Engineering)を実現する手法です。FDEとは、顧客業務の最前線に自ら入り込み、AI/DXを実際に価値を生むところまで責任を持って実装・展開するアプローチで、従来のシステムを導入して終わりではなく、継続的なアプローチにより課題抽出と新技術のUPDATEを繰り返すことで価値を提供します。

エンタープライズAIソリューション事業

本セグメントは、大手企業を中心に、経営・業務の中核領域における意思決定や業務遂行を担うAIエージェントを起点としたAIソリューション提供および業務変革コンサルティングを行う事業です。

顧客の経営課題・事業課題に対し、AIエージェントを活用した業務設計・業務変革構想の策定から、AIエージェントの設計・実装、基幹業務との接続、運用定着までを一気通貫で支援します。

特に、意思決定・審査・対話・判断といった高い信頼性が求められる業務領域において、業務知識を組み込んだAIエージェントを業務プロセスの中核に据える点に強みを有しています。

また、個別開発に留まらず、AIエージェント設計パターンや業界別ユースケースの標準化・再利用を進めることで、案件横断での展開を可能とし、スケーラブルな提供モデルへの転換を進めています。これにより、高付加価値領域の需要を安定的に取り込みつつ、収益性・再現性の高い事業構造を構築しています。

AIワークフローエンジニアリング事業

本セグメントは、企業の業務プロセスそのものを起点に、AIエージェントを業務フローへ組み込み、業務全体を自律的に回す仕組みへ転換することを目的とした事業です。

AIモデル単体の導入ではなく、業務フロー、役割分担、データ連携、判断ルールをAIエージェント前提で再設計し、業務が継続的に改善・進化する運用モデルを構築します。

内製化を進めたいが人材が集まらない、AIが現場に定着しないといった課題に対しては、業務に寄り添った伴走型の導入支援を通じて、AI前提の業務運用への移行を支援しています。

企業ごとの業務特性に応じた柔軟な設計力を強みに、一度きりの導入ではなく、継続的な利用・改善を前提としたAIワークフロー基盤を提供することで、LTVの最大化を図り、顧客との中長期的な関係構築を重視した事業展開を行っています。

DATA&AIエンジン事業

本セグメントは、顧客企業内に存在する業務データ、営業・業務ナレッジ、判断基準や暗黙知を、AIエージェントが再利用可能な構造化知識へと変換・蓄積する事業です。

当社は顧客データそのものを保有するのではなく、顧客内データを接続・意味づけし、業務オントロジー、AIエージェント設計テンプレート、業界別知識モデルとして資産化する点に強みを有しています。

本セグメントは、既存プロダクトや顧客接点（BBDIグループを含む）を起点にリカーリング型収益を創出するとともに、エンタープライズAIソリューション事業およびAIワークフローエンジニアリング事業で蓄積した知見を横断的にパッケージ化・水平展開する役割を担います。

これにより、グループ全体としてAI実装の再利用性と展開速度を高め、AIプラットフォーム事業としての中長期的な成長基盤を構築してまいります。

当社グループが目指すFDE主導のAI実装力、SyncLect Data Intelligenceをはじめとするナレッジ資産化、及び既存顧客への継続的な価値提供を、収益基盤の形成と同時に、構造的・継続的な事業成長を循環するシナジー形成により実態に即して把握できる管理体制としています。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は1,262,400千円（前年同期比70.8%増）、営業利益は135,293千円（前年同期は営業損失67,619千円）、経常利益は52,075千円（前年同期は経常損失2,865千円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は12,449千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失20,619千円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、3,987,408千円となり、前連結会計年度末と比較して137,536千円の増加となりました。

流動資産は1,809,691千円となり、前連結会計年度末と比較して229,087千円の増加となりました。これは主に、売掛金及び契約資産が46,330千円減少したものの、現金及び預金が232,921千円、前渡金が33,000千円、前払費用が13,138千円増加したことによるものです。固定資産は前連結会計年度末と比較して91,551千円減少し、2,177,716千円となりました。主な要因は、投資その他の資産が82,655千円減少したことによるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は2,620,050千円となり、前連結会計年度末と比較して123,877千円の増加となりました。これは主に、買掛金が23,483千円、未払消費税等8,508千円減少したものの、契約負債が153,887千円増加したことによるものであります。

なお、当連結会計年度において、流動比率が69.1%となり、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせる状況を識別しておりますが、その主な原因は関係会社株式取得のために短期借入金1,900,000千円によるものであります。この短期借入金については、金融機関から借入の際に、1年以内に長期借入金に借り換えをする前提で借入をしたものであるため、継続企業の前提に重要な不確実性はないと認識しております。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は1,367,357千円となり、前連結会計年度末と比較して13,658千円の増加となりました。これは主に、資本金が250千円、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が12,449千円増加したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年12月期の業績予想につきましては、本日2026年5月15日に公表しました「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	625,145	858,067
売掛金及び契約資産	828,670	782,339
仕掛品	17,349	12,881
前渡金	30,250	63,250
前払費用	55,715	68,854
その他	23,672	24,599
貸倒引当金	△200	△300
流動資産合計	1,580,604	1,809,691
固定資産		
有形固定資産	42,490	42,702
無形固定資産		
のれん	154,603	146,466
その他	7,136	6,165
無形固定資産合計	161,740	152,632
投資その他の資産		
関係会社株式	1,870,609	1,815,365
繰延税金資産	4,516	8,388
デリバティブ債権	103,230	82,003
その他	86,682	76,623
投資その他の資産合計	2,065,037	1,982,382
固定資産合計	2,269,268	2,177,716
資産合計	3,849,872	3,987,408
負債の部		
流動負債		
買掛金	216,057	192,573
未払金	47,122	32,606
短期借入金	1,900,000	1,900,000
未払費用	200,230	181,537
未払消費税等	82,601	74,093
未払法人税等	4,018	35,849
契約負債	1,286	155,173
預り金	41,311	45,815
受注損失引当金	1,140	10
その他	14	0
流動負債合計	2,493,782	2,617,660
固定負債		
永年勤続表彰引当金	2,390	2,390
固定負債合計	2,390	2,390
負債合計	2,496,173	2,620,050

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	389,887	390,137
資本剰余金	379,887	380,137
利益剰余金	561,288	573,737
自己株式	△227	△227
株主資本合計	1,330,835	1,343,785
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△3,084	△9,437
為替換算調整勘定	2,019	4,696
その他の包括利益累計額合計	△1,064	△4,741
非支配株主持分	23,929	28,313
純資産合計	1,353,699	1,367,357
負債純資産合計	3,849,872	3,987,408

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
売上高	739,209	1,262,400
売上原価	441,261	695,474
売上総利益	297,948	566,925
販売費及び一般管理費	365,568	431,632
営業利益又は営業損失(△)	△67,619	135,293
営業外収益		
受取利息	422	3,335
為替差益	1,150	—
デリバティブ評価益	62,399	—
助成金収入	—	1,200
その他	782	710
営業外収益合計	64,754	5,245
営業外費用		
支払利息	—	8,826
デリバティブ評価損	—	21,226
持分法による投資損失	—	55,243
為替差損	—	3,124
その他	—	42
営業外費用合計	—	88,463
経常利益又は経常損失(△)	△2,865	52,075
固定資産除却損	—	64
特別損失合計	—	64
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△2,865	52,011
法人税、住民税及び事業税	7,324	37,017
法人税等調整額	8,676	△948
法人税等合計	16,000	36,069
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△18,866	15,942
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,753	3,492
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△20,619	12,449

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△18,866	15,942
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	20,639	△6,352
為替換算調整勘定	△1,889	3,568
その他の包括利益合計	18,749	△2,784
四半期包括利益	△116	13,157
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,397	8,772
非支配株主に係る四半期包括利益	1,280	4,384

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

1. 報告セグメントの概要

当社グループは従来、AIソリューション事業の単一セグメントとしておりましたが、2026年12月期においてBBDイニシアティブ株式会社の吸収合併により、X-Tech FDE起点のAIプラットフォーム事業に変更することになりました。単なるAIのSaaS企業ではなく、FDE・業務知見・データ基盤・AIエンジンを再利用可能化した事業基盤を構築循環する事業モデルであり、資産化、収益基盤の変革を生じるため、当第1四半期連結累計期間より「エンタープライズAIソリューション事業」、「AIワークフローエンジニアリング事業」、「DATA&AIエンジン事業」の3つのセグメントに区分変更することになりました。

これに伴い、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報につきましては、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成しております。

当社グループの報告セグメントは当社の構成単位のうち分離された財務諸表が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分決定及び業績評価をするために、定期的に検討を行う事業セグメントを基礎としております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当社グループの報告セグメントによる売上収益及び業績は以下の通りであります。

前第1四半期連結累計期間（自 2025年1月1日 至 2025年3月31日）

(千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結財務諸表計上額 (注) 2
	エンタープライズAIソリューション事業	AIワークフローエンジニアリング事業	DATA & AIエンジン事業	計		
売上収益						
外部顧客への売上収益	703,170	36,039	—	739,209	—	739,209
セグメント間の内部売上収益	5,907	60,336	—	66,243	△66,243	—
計	709,077	96,375	—	805,453	△66,243	739,209
セグメント利益又は損失(△)	△73,508	5,671	—	△67,836	217	△67,619

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額217千円は、セグメント間取引消去等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. DATA&AIエンジン事業は、BBDイニシアティブ株式会社の吸収合併に伴って発生する事業セグメントであり、前第1四半期累計期間においては吸収合併前であるため、記載しておりません。

当第1四半期連結累計期間(自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)

(千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連 結財務諸 表計上額 (注) 2
	エンタープラ イズAIソリュ ーション事業	AIワークフロ ーエンジニア リング事業	DATA & AI エンジン 事業	計		
売上収益						
外部顧客への売上収益	1,105,862	156,537	—	1,262,400	—	1,262,400
セグメント間の内部売上 収益	2,436	89,979	—	92,415	△92,415	—
計	1,108,299	246,516	—	1,354,815	△92,415	1,262,400
セグメント利益	116,731	17,778	—	134,510	783	135,293

(注) 1. セグメント利益の調整額783千円は、セグメント間取引消去等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. DATA&AIエンジン事業は、BBDイニシアティブ株式会社の吸収合併に伴って発生する事業セグメントであり、当第1四半期累計期間においては吸収合併前であるため、記載しておりません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれん償却額は、次の通りであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
減価償却費	5,262千円	5,054千円
のれん償却額	—千円	8,137千円